

支持体作り ※太秦のスタジオと、芸術センターでの制作の写真

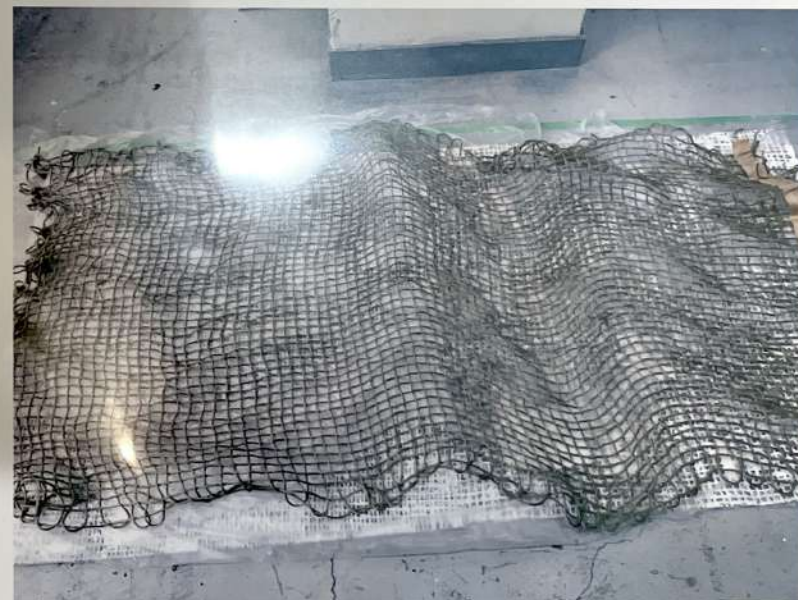
縦糸を綜統* (そうこう) に通す。麻紐は緩みやすいのでしきりにひっぱりながら。

*綜統…縦糸を上げ下げするパーツ



←横糸を、大きな杼(ひ)に巻いて、通している
ひたすら縦糸に横糸を通す単純作業。

↓出来立ての布は、まだ麻紐が動く状態であふにやふにや。



* 糊と、下地ひき *

ジェルメディウムを塗る↓

※荷造り紐とクランプで上下左右に引っ張って固定する。
張りがあまいと、波打ってぼこぼこになってしまう。

2日程乾燥

その上からジェツソを塗る↓

乾燥したら、カットする。

ぱりとした、柔軟なキャンパスのできあがり。



* 2023年 京都芸術センター制作室で *

これまでのことをふまえて、今までで一番大きな支持体作り。

一度にできるのは90×180cmなので、それを6枚組み合わせ横540×縦180cmのキャンバスを制作。キャンバスの外側のサイズが大きくなるということで、隙間の間隔と麻紐の太さを吟味。小さな織機による試し織。16, 18, 20mmで試し、18mmを採用。
右の写真が今回の展示「くいきをむすぶ絵」のために作った完成したキャンバス。

小さな部屋で大きいと感じていたものが、大きな部屋では小さく感じるという当たり前の事から、隙間の間隔や紐の太さを考えてみる。

絵の外の要素についてはあまり考えることはなかったけれど、この支持体と出会い、無関係ではないのではと考えるようになった。

今は、絵の中の世界と、絵の中と外の空間との関係、二つの方向から絵について探っている。



← 綜紐

